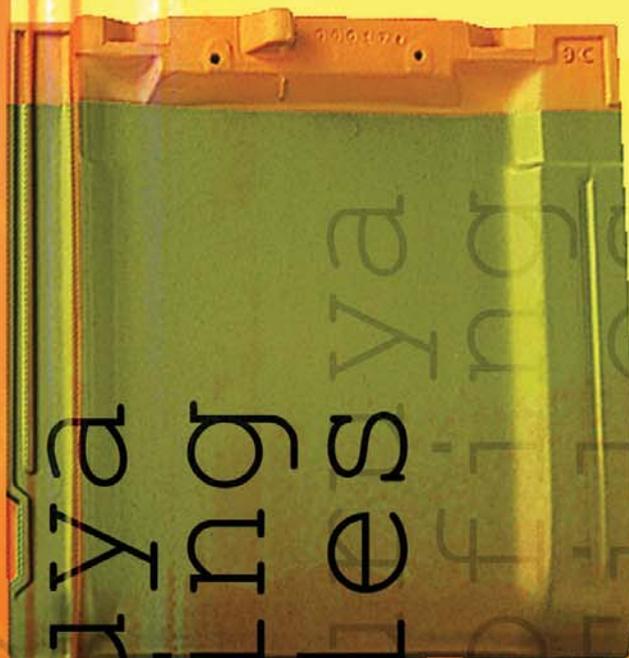




第40期 中間報告書

平成18年4月1日から平成18年9月30日まで



株式会社 鶴 弥

経営に関するQ&A



代表取締役社長 鶴見 宗

<経営理念>

強く美しく、取り扱いはやすく、
値打ちも、より安全な、
粘土瓦を提供する。

◆国内経済においては、新政権が発足し、情勢は新たな変化の兆しを見せています。将来的な税制構造の改革や、少子化問題に加え、世界情勢に影響を及ぼす国際的な事変が頻発し、出口の見えない緊迫状態が今後の国内経済をも揺るがす要素を多分に含んでいます。このような将来の予測が困難な状況下、企業としてどのような展望をおもちですか。

国内の景気は、ご周知のように戦後最長のいざなぎ景気を超え、活気を取り戻しつつあります。一方では、新設住宅着工戸数は、一時的な回復はあるものの、今後の予測はし難い状況にあります。また、産油国に関連した国際情勢の緊迫化が、原油価格の高止まり、資材価格の上昇までも招き、高温焼成物を扱う粘土瓦業界においては非常に厳しい生存競争を強いられており、業界再編の動きはさらなる加速化の様相を呈しております。そのような状況は当社におきましても例外ではなく、コストアップ要因は自助努力の範囲を超える勢いで強まり、安定供給を前提としてお客様にご理解頂きながら、最終製品への転嫁を行わざるを得なくなりました。また、需要構造の大きな変化に柔軟に対応できる体制の確立も必要となってきたと見ております。このような状況を、当社はさらなる競争力を得る契機と捉え、より確実な収益基盤を確立するため、市場における有効な販売網の構築、コスト構造の改善、品質・環境面における充実化など、多角的な方策を進めてまいります。また、市場ニーズに適合した新製品の開発、品揃えの充実化、さらなる出荷体制の向上に尽力し、確実に安全・安心をお届けすることによりお客様にご満足頂けるよう、努めてまいりたいと考えております。

◆前述の通り、原油価格、資材価格等、コストアップに歯止めがかからない状況となっており、多くの企業にとって、それは経営の舵を取る上で大きな障壁となっております。そういった状況においても鶴弥は工場の新設や設備の更新等、積極的な設備投資を進められておりますが、どのような背景があるのでしょうか。

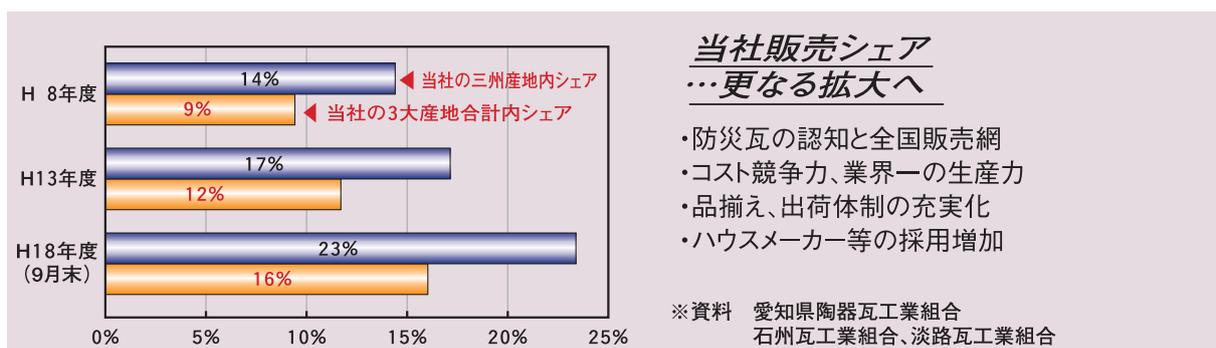
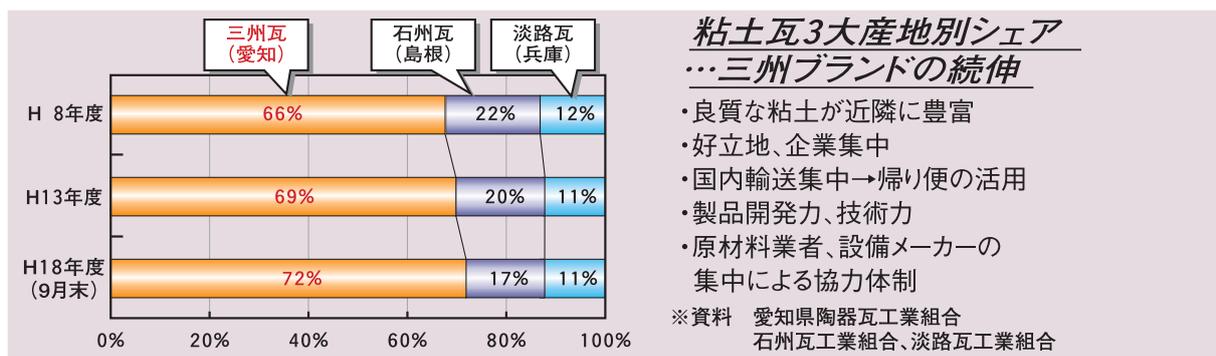
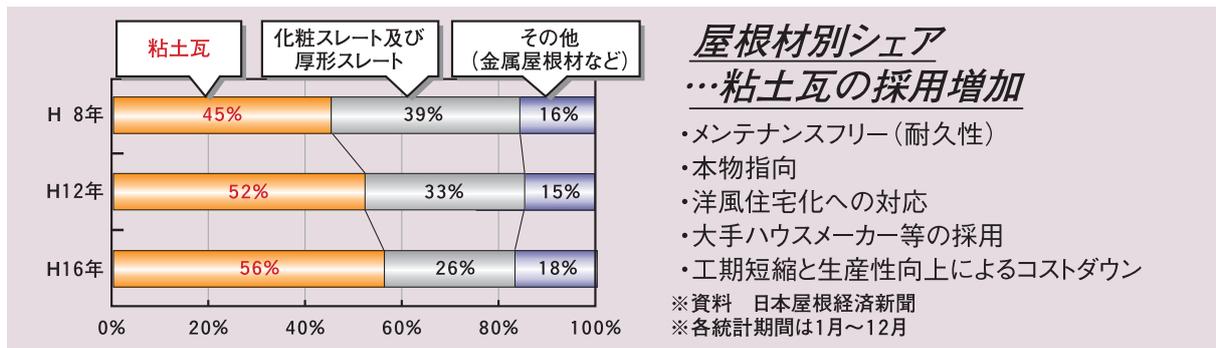
このような苦境の時期であるからこそ、将来に備えた十分な供給能力を確保しておくことが必要であると考えております。近年、当社が主力製品の普及と拡大を見据えて進めてきた工場の新設(阿久比工場)や顧客ニーズのトレンドに柔軟に対応するための設備の改造(本社工場第2ライン)がもたらした効果は大きく、お客様が求める十分な品揃えを実現し、また、独自の生産技術と受注の増加に伴う稼働率の高まりとともに、より強固なコスト競争力を獲得し、大きな差別化要素となっております。今後におきましても、市場の動きを正確に捉え、さらなるシェア拡大・生産体制の強化を進め、継続的な経営基盤の拡充に努めてまいりたいと考えております。現在建設を進めております阿久比工場「第3ライン」は、粘土瓦市場の動向を見据え、さらなる供給体制の充実化を図るものであり、強力な存在になり得るものと確信しております。また、一方では、今後の新設住宅着工戸数100万戸時代による国内市場の縮小化に備えなければなりません。本業とする粘土瓦事業におけるシェア拡大はもちろん、近年特に注力し市場投入を進めております屋根周辺分野の商品開発や、海外市場も視野に入れていくなど、気を緩めることなく、積極的な事業展開を進めてまいりたいと考えております。

◆今後の投資市場への働きかけ、および利益配分に関する基本方針をお聞かせください。

昨年の投資単位の引き下げ(500株→100株)ならびに一般公募増資(70万株)の実施により、多くの投資家の方に当社を知っていただく機会ともなり、またお蔭様をもちまして、昨年の本社工場第2ラインの改造に引き続き、阿久比工場第3ラインの着工を迎えることができました。また、投資市場における当社株式の普及とともに、本年9月には、東京証券取引所より「制度信用銘柄」の指定をいただき、市場の取引に厚みを持たせる銘柄の1つとなりました。今後とも、投資市場に対して積極的に働きかけを行い、より幅広い層の投資家の方が株主になっていただきやすい環境づくりに努めてまいりたいと考えております。また、継続的な事業の拡大と存続、資本構成の改善、安定的な収益基盤づくりを進めるため、これらの条件に必要な適正な内部留保と株主様への適正かつ安定的な利益配分を継続することを基本方針とし、全社一丸となって、社業の発展に邁進いたす所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

一屋根材業界・粘土瓦業界・当社販売シェアの動向一



経営成績

1. 当中間期の概況

当中間期におけるわが国経済は、設備投資と個人消費が引っ張る内需主導型の本格的な景気拡大基調を辿ってまいりました。

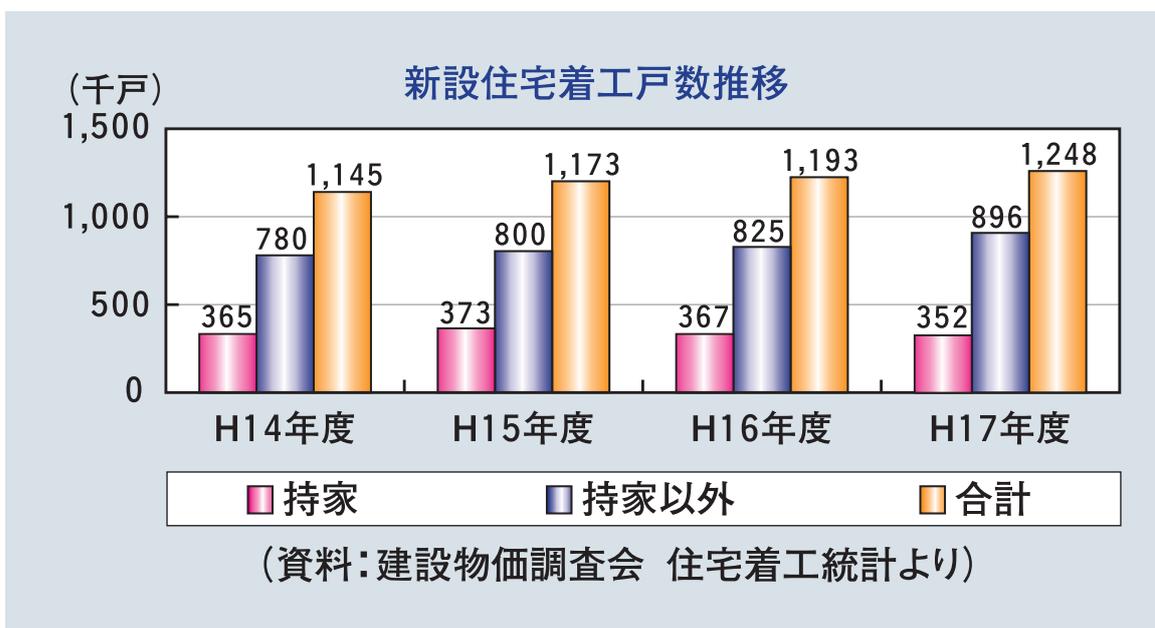
当業界におきましては、粘土瓦需要動向を大きく左右する新設住宅着工戸数（特に持家）が前年比ほぼ横這い程度で推移する中、昨年後半からの原油・原材料等の価格高騰の影響が徐々に表われ、最終製品に転嫁出来ないメーカーに与える影響は深刻で同業者間での価格競争も限界に近く廃業に追い込まれる業者も出始め、同業者間の競争力に二極化が鮮明になってまいりました。

このような情勢下当社は、住宅の洋風化が益々顕著に推移していく中、F形瓦・M形瓦につきましては前年実績を上回ったものの、住宅の洋風化による需要減少・同業者間の熾烈な価格競争により、J形瓦の大幅な販売減少により売上高は前年実績を下回りました。

利益面におきましては、コストアップに対応した販売価格の改定・F形瓦を中心とした生産稼働率の向上・歩留り改善等の効果により燃料費を始めとする製造コスト増を吸収し、売上総利益率が向上し、売上高が減少したにもかかわらず売上総利益額は増加しましたが、販売費及び一般管理費の増加を吸収しきれず、経常利益は若干減少し、特別損失の大幅な減少により中間純利益は増益となりました。

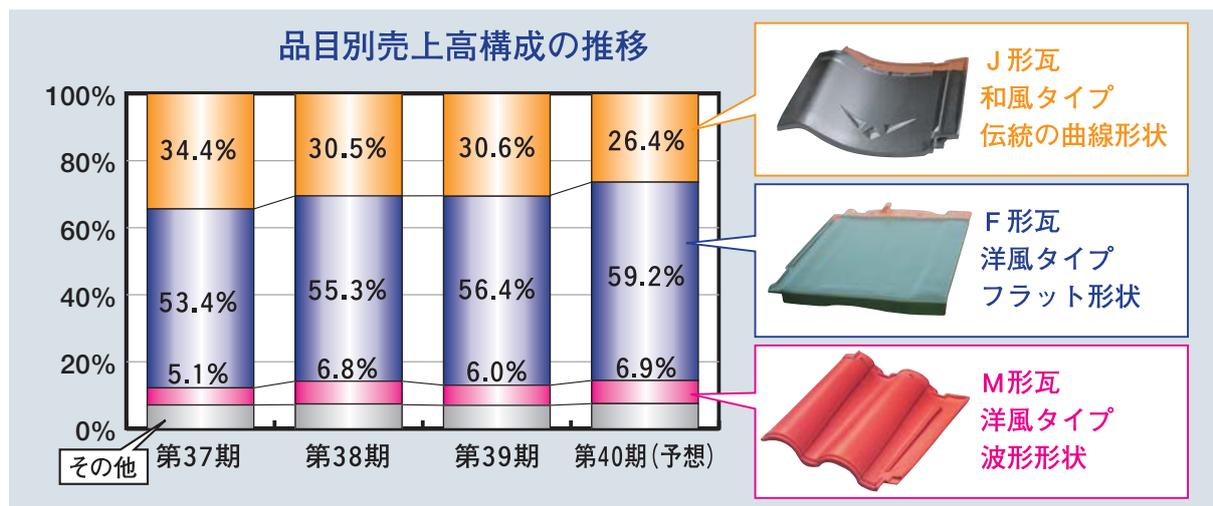
この結果、当中間期の売上高は62億14百万円（前年同期比2.9%減）、営業利益4億39百万円（前年同期比8.3%減）、経常利益4億22百万円（前年同期比5.9%減）、中間純利益2億33百万円（前年同期比130.0%増）の減収増益となりました。

なお中間配当金につきましては、前中間期と同額の7円50銭を実施いたします。



◇品目別売上高実績◇

品目別	売上高(百万円)	構成比(%)	前年同期比(%)
J形瓦	1,496	24.1	71.6
F形瓦	3,894	62.7	111.5
M形瓦	391	6.3	104.0
その他	431	6.9	108.1
合計	6,214	100.0	97.1



2. 通期の見通し

当中間期以降の国内経済は、個人消費、設備投資の伸びは緩やかに鈍化し、年度末にかけて景気が緩やかに減速し踊り場局面に入る事が予想されます。

当業界におきましては、上期同様持家住宅の新設着工戸数が前年比ほぼ横這い状態にあり、下期においても需要増は期待しにくい状況下にあり、原油高等のリスク要因と併せて企業の存亡をかけた熾烈な競争が予想されます。

こうした情勢のもとで、当社は、上期に引き続き販売基盤の拡大を図るため、成長を続ける戦略製品F形防災瓦「スーパートライ110」の増販と共に住宅の洋風化による需要減少・同業者間の熾烈な価格競争により大幅な減少を余儀なくされたJ形防災瓦「スーパーエース」の拡販に積極的に取り組み、併せてM形瓦「スーパートライ110サンレイ」についても、製品バリエーションを追加し、更なる拡販に努めます。また年々増加し続け、お客様にも高い信頼を得た「スーパートライ110」の慢性的な在庫不足を解消し、お客様に満足していただけるように、阿久比工場第3ライン(F形棧瓦専焼ライン)を今年度内に完成させ、製品の品揃えの更なる充実をはかり、いかなる経営環境の変化にも対応できる経営体質を維持・向上できるよう、全社を挙げて努力してまいります。

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	期 別	前中間期 (平成17年9月30日現在)	当中間期 (平成18年9月30日現在)	増 減	前 期 (平成18年3月31日現在)
(資産の部)					
流動資産					
現金及び預金		745,191	1,445,664	700,472	892,950
受取手形		1,684,188	1,376,807	△307,380	1,882,096
売掛金		1,399,685	1,567,297	167,612	1,391,221
たな卸資産		958,000	1,391,929	433,928	1,240,424
繰延税金資産		107,482	130,606	23,123	121,720
その他		51,330	57,568	6,238	36,796
貸倒引当金		△9,337	△100,382	△91,045	△63,404
流動資産合計		4,936,541	5,869,490	932,949	5,501,806
固定資産					
有形固定資産					
建物		1,511,673	1,543,461	31,788	1,558,031
機械及び装置		1,484,945	1,476,100	△8,845	1,613,068
土地		9,163,376	9,163,376	—	9,163,376
建設仮勘定		171,197	377,511	206,313	29,558
その他		427,063	423,649	△3,414	418,607
有形固定資産合計		12,758,256	12,984,098	225,842	12,782,642
無形固定資産		39,525	29,860	△9,664	34,240
投資その他の資産					
繰延税金資産		325,831	375,249	49,417	327,800
その他		870,518	1,046,147	175,629	989,772
貸倒引当金		△267,329	△427,647	△160,318	△293,027
投資その他の資産合計		929,020	993,749	64,728	1,024,545
固定資産合計		13,726,802	14,007,708	280,906	13,841,427
資産合計		18,663,344	19,877,199	1,213,855	19,343,234

(単位：千円)

科 目	期 別	前中間期 (平成17年9月30日現在)	当中間期 (平成18年9月30日現在)	増 減	前 期 (平成18年3月31日現在)
(負債の部)					
流動負債					
支払手形		1,599,295	2,216,226	616,930	1,688,958
買掛金		478,476	494,332	15,856	556,229
短期借入金		5,350,000	5,450,000	100,000	5,300,000
1年以内返済予定の長期借入金		492,000	692,000	200,000	692,000
未払費用		426,657	471,817	45,160	394,559
未払法人税等		239,171	244,216	5,045	263,128
賞与引当金		163,746	170,322	6,576	175,742
役員賞与引当金		—	11,370	11,370	—
設備関係支払手形		266,120	432,274	166,153	215,415
その他		176,835	107,765	△69,070	152,427
流動負債合計		9,192,303	10,290,324	1,098,021	9,438,461
固定負債					
長期借入金		1,427,000	545,000	△882,000	981,000
退職給付引当金		64,808	70,165	5,357	70,776
役員退職慰労引当金		637,038	613,332	△23,706	641,692
その他		1,000	1,000	—	1,000
固定負債合計		2,129,846	1,229,497	△900,348	1,694,468
負債合計		11,322,149	11,519,822	197,672	11,132,929
(資本の部)					
資本金					
資本剰余金		1,498,850	—	—	1,817,350
資本準備金					
資本準備金		2,321,850	—	—	2,640,350
その他資本剰余金		57	—	—	57
資本剰余金合計		2,321,907	—	—	2,640,407
利益剰余金					
利益準備金		110,163	—	—	110,163
任意積立金		2,116,343	—	—	2,116,343
中間(当期)未処分利益		1,208,084	—	—	1,398,641
利益剰余金合計		3,434,591	—	—	3,625,147
その他有価証券評価差額金		91,329	—	—	133,103
自己株式		△5,483	—	—	△5,703
資本合計		7,341,194	—	—	8,210,305
負債資本合計		18,663,344	—	—	19,343,234

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	期 別	前中間期 (平成17年9月30日現在)	当中間期 (平成18年9月30日現在)	増 減	前 期 (平成18年3月31日現在)
(純資産の部)					
株主資本					
資本金		—	1,817,350	—	—
資本剰余金					
資本準備金		—	2,640,350	—	—
その他資本剰余金		—	57	—	—
資本剰余金合計		—	2,640,407	—	—
利益剰余金					
利益準備金		—	110,163	—	—
その他利益剰余金					
特別償却準備金		—	28,587	—	—
固定資産圧縮積立金		—	22,973	—	—
別途積立金		—	2,050,000	—	—
繰越利益剰余金		—	1,573,148	—	—
利益剰余金合計		—	3,784,872	—	—
自己株式		—	△5,703	—	—
株主資本合計		—	8,236,925	—	—
評価・換算差額等					
その他有価証券評価差額金		—	120,451	—	—
純資産合計		—	8,357,376	—	—
負債純資産合計		—	19,877,199	—	—

損益計算書

(単位：千円)

科 目	期 別	前中間期 (自平成17年4月1日 至平成17年9月30日)	当中間期 (自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)	増 減	前 期 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)
売上高		6,397,509	6,214,591	△182,917	12,289,565
売上原価		4,843,875	4,625,499	△218,376	9,384,338
売上総利益		1,553,633	1,589,092	35,458	2,905,227
販売費及び一般管理費		1,074,327	1,149,400	75,072	1,938,941
営業利益		479,306	439,692	△39,614	966,285
営業外収益		23,479	22,491	△988	37,766
営業外費用		53,899	39,874	△14,024	107,707
経常利益		448,886	422,308	△26,577	896,344
特別利益		7,158	92	△7,065	8,158
特別損失		221,584	3,851	△217,732	258,961
税引前中間(当期)純利益		234,460	418,550	184,089	645,542
法人税、住民税及び事業税		228,145	232,848	4,702	446,237
法人税等調整額		△95,201	△47,765	47,436	△139,702
中間(当期)純利益		101,516	233,466	131,950	339,007
前期繰越利益		1,106,568	—	—	1,106,568
中間配当額		—	—	—	46,934
中間(当期)未処分利益		1,208,084	—	—	1,398,641

財務データ

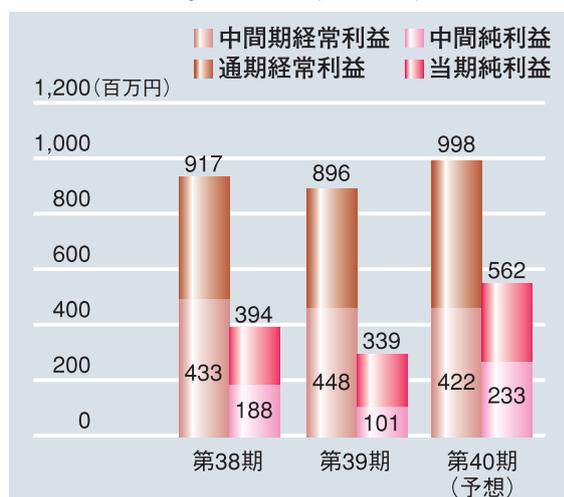
売上高



1株当たり中間(当期)純利益



経常利益/中間(当期)純利益



総資産/純資産



株主資本利益率 (ROE)



1株当たり配当金/配当性向



注) 1株当たり当期純利益・株主資本利益率・1株当たり配当性向につきましては、平成17年11月25日払込による公募増資後の株式数等に基づき算出しております。

株式の状況 (平成18年9月30日現在)

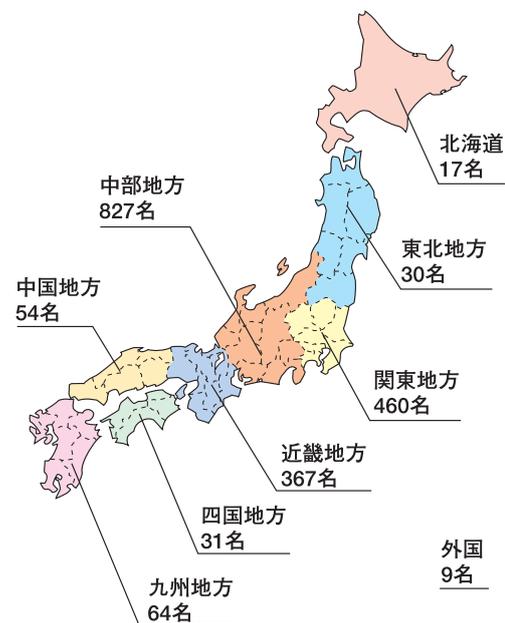
○株式数及び株主数

発行可能株式総数…………… 25,000,000 株
 発行済株式総数…………… 6,967,800 株
 当中間期末株主数…………… 1,859 名
 自己株式の保有数…………… 10,099 株

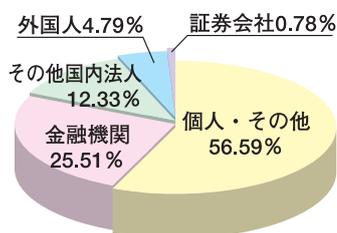
○大株主（上位10名）

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
鶴見 哲	1,551,200	22.31
有限会社トライ	637,700	9.17
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	316,800	4.55
株式会社三菱東京UFJ銀行	310,400	4.46
株式会社みずほ銀行	310,000	4.45
商工組合中央金庫	308,000	4.43
鶴見 栄	140,000	2.01
岡崎信用金庫	132,000	1.89
鶴見 日出雄	132,000	1.89
細井 芳美	132,000	1.89

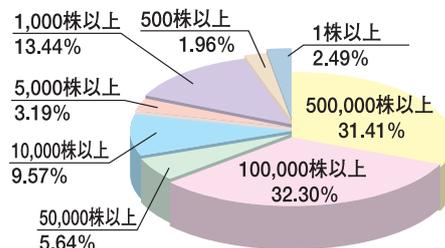
○地域別株主分布図



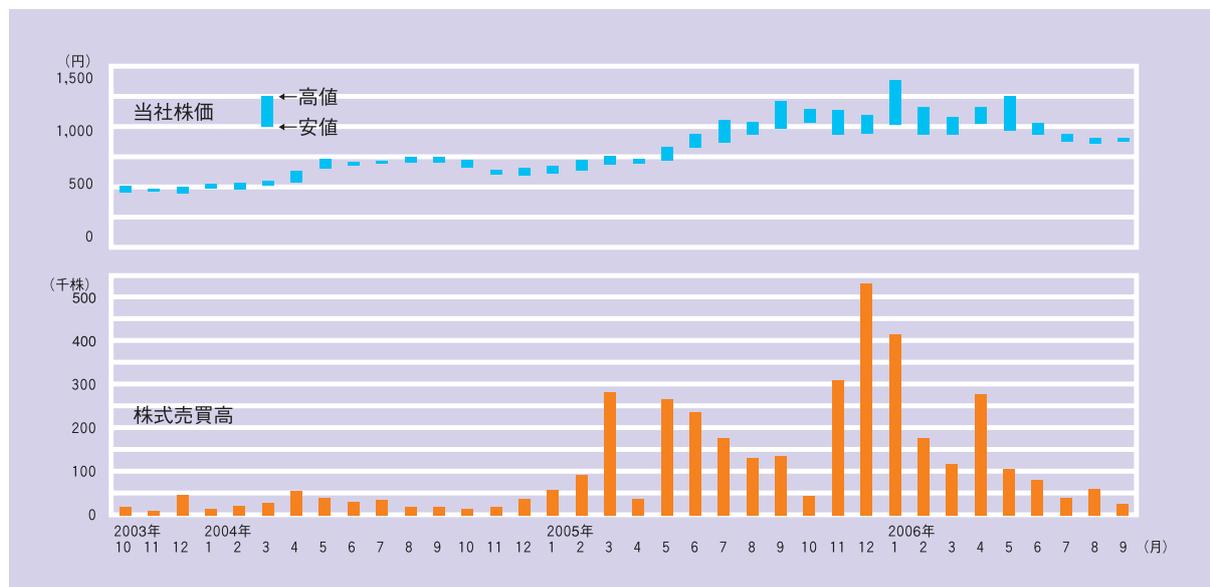
○所有者別分布状況



○所有株数別分布状況



○株価・株式売買高の推移



会社の概要(平成18年9月30日現在)

商号	株式会社 鶴弥
本社	TSURUYA CO., LTD. 愛知県半田市州の崎町2番地12 TEL(0569)29-7311(代表)
設立	昭和43年2月
事業内容	陶器瓦の製造及び販売 屋根工事の請負及び施工 屋根資材の販売 上記に付帯関連する一切の事業
資本金	1,817,350,000円
発行済株式総数	6,967,800株
従業員数	479名
事業所	本社及び本社工場 〒475-8528 愛知県半田市州の崎町2番地12 衣浦工場 〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地1 西尾工場 〒444-0325 愛知県西尾市楠村町南浜屋敷16番地1 阿久比工場 〒470-2215 愛知県知多郡阿久比町大字矢高字西の台1番地1 仙台営業所 〒983-0002 宮城県仙台市宮城野区蒲生2丁目29番地3

役員(平成18年9月30日現在)

代表取締役社長	鶴見 栄
代表取締役専務	鶴見 哲
常務取締役	稲垣 富定
常務取締役	藤井 雅昭
取締役	白井 義春
取締役	榊原 勝夫
取締役	山内 浩一
取締役	神谷 秀夫
取締役	榎本 守敏
常勤監査役	近藤 和敏
監査役	住友 暉男
監査役	北折 義孝
監査役	鶴見 恒夫

(注) 監査役住友暉男、鶴見恒夫は、社外監査役であります。



阿久比工場外観

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金配当の基準日	3月31日
中間配当の基準日	9月30日
公告方法	電子公告によります。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

公告のホームページアドレス	http://www.try110.com
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 TEL(0120)78-2031(フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
1単元株式数	100株

(お知らせ)

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-87-2031またはホームページhttp://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.htmlで24時間受付しております。

製品紹介 (主力製品)

F形防災瓦



イチ イチ マル

スーパートライ110

タイプI
適度なボリューム感が特徴

タイプII
シンプルな美しさが特徴

タイプIII
瓦の山と谷が縦につながるフォルムが特徴



▲写真 タイプI

写真 タイプIII
カラー:ギンリン



ハイパーアーム
アンダーロック部

◀スーパーロック工法により優れた耐風・耐震効果を発揮します。
<タイプI、II、III>

ポイントリターンにより、暴風雨に対して威力を発揮します。
<タイプIIIのみ>



M形防災瓦



イチ イチ マル

スーパートライ110 サンレイ

个性的で華やかな印象のサンレイ。暖かな風合いが洋風住宅を明るく楽しく演出します。



カラー:ティエラレッド、
ティエライエロー



ハイパーアーム
アンダーロック部

◀スーパーロック工法により優れた耐風・耐震効果を発揮します。

従来の平板瓦に比べ ▶
約20%軽くなりました。

20%

軽量



▲



従来の平板瓦 (三州の平均) サンレイ1車1台 (約1t)

J形防災瓦



J形防災瓦
Eース

日本伝統の形に耐風・耐震の強さを加えました。

J形防災瓦
Super Ace

耐風・耐震・防水に関する多くの安心機能を盛り込みました。



▲写真 防災瓦Eース

写真 スーパーEース
カラー:ギンリン



◀かみ合わせ構造により、優れた耐風・耐震効果を発揮します。

谷部に設けたEースバリアにより、雨水の流れをスムーズにします。
<スーパーEースのみ>



その他

カルむね

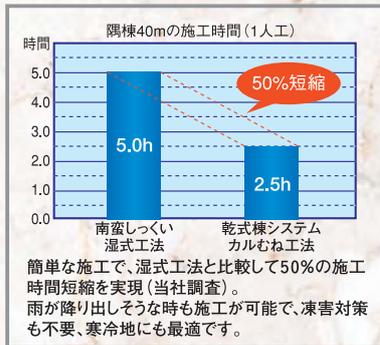
乾式棟システム
カルむね



軽くて高耐久な乾式棟システム「カルむね」は、湿式工法と比べ、屋根の重さを20%(約1t)減量することができます。



※防水性能試験において、時間降雨量240mm/hr、風速49m/s相当の圧力という厳しい条件で「漏水無し」という結果が得られました。(於愛知県三河産業試験場)



トピックス

1. 阿久比工場「第3ライン」建設着工



◀阿久比工場
第3ライン
建設風景

近年の継続的な住宅の洋風化に伴い、F形瓦(洋風瓦)の受注が堅調に推移している中、当社では好評いただいておりますF形防災瓦「スーパートライ110」のさらなる供給力向上のため、今年度末の完工を目途に、阿久比工場敷地(愛知県知多郡阿久比町)に阿久比工場「第3ライン」の建設を開始いたしました。

業界最高峰の月産150万枚を生産する既設の阿久比工場第2ラインと、同規模の能力を予定しており、さらなる品揃えの充実化を図ってまいります。また当工場においては、燃料使用効率の向上を実現するため、焼成設備の一部軽量化を実施し、コスト削減を図っていく予定であります。将来的には、焼成設備の一部軽量化を他の製造拠点にも展開していく方針であり、近年の原油価格を中心としたコストアップ要因に対処できる体制の整備に努めていく方針であります。

2. 2006年「日経ものづくり大賞」(第3回)を受賞



◀工場に導入された
アーム型ロボット

日本経済新聞社が主催する2006年「日経ものづくり大賞」(第3回)を、当社が平成17年12月より稼働を開始しておりますロボットを導入した粘土瓦製造ライン「本社工場第2ライン」が受賞いたしました。

「日経ものづくり大賞」は、最先端の技術や独自のもの作りをしている工場・研究所、そこで

導入しているシステムを表彰するもので、国内外12箇所の事業所やシステムの受賞がありました。

今回は審査員の方より、「地場産業に最先端のロボットシステムを取り入れた独創的な発想により、柔軟且つ効率的な生産体制を可能にし、また、製造過程における人員の省力化が実現し、従業員の環境改善にも取り組む経営者の思いが感じられる」との評価を頂きました。

今回の受賞は、絶えずお客様のニーズに対応するために改善を進めてきた結果であると考えており、当社にとって今後の経営活動の強力な励みになります。また、何よりも従業員を奮起させるものであります。今後とも、皆様に、より高い評価をいただけるような生産体制づくりに尽力してまいります。

3. 鶴弥オリジナル乾式棟システム「カルむね」発売



◀新乾式工法
による施工写真

平成18年7月に、当社主力製品「スーパートライ110」シリーズを採用する寄棟屋根の棟部分に適用できる新乾式工法(※1)のオリジナル乾式棟システム「カルむね」を発売いたしました。

主な特長としては、高耐久性部材と透湿性・防水性に優れた部材から構成され、屋根の耐久性向上、

屋根の重量軽減(従来の湿式工法(※2)と比較し約1トンの軽量化)、施工の簡素化(当社調査:湿式工法と比較し50%の施工時間削減)を実現しました。

※1「乾式工法」:セメント、モルタル、屋根土等、水を混ぜた材料を使用しない。

※2「湿式工法」:乾式工法と異なり、水を混ぜた材料を用いる。

トピックス

4. 「スーパートライ110」テレビコマーシャル放映



▲「防災瓦は鶴弥」編オンエアCM

これまで、「地震や台風に強い防災瓦」を広く伝えるため、スーパートライ110のテレビコマーシャルを放映してまいりましたが、本年も平成18年4月20日～平成18年9月20日にかけて「防災瓦は鶴弥」編を放映いたしました。多方面からより多くの反響をいただき、安全・安心を提供する瓦メーカーとして認知され、さらなる鶴弥ブランドの向上につながっております。

5. 名証IRエキスポ2006に出展～10回表彰～



◀会場内全景

▶一般投資家への説明風景



多くの一般投資家の方や投資専門家の方と接することのできる「名証IRエキスポ」(平成18年7月開催、名古屋証券取引所主催)への参加も、今回で10回目となりました。

今回の出展社数は131社、一般投資家の来場者数4,200人と、過去最高を記録し、投資家の方の関心の高さや企業側の積極的なIR活動の動き、双方の意欲の高さが感じられました。

また、今回は当社にとって10回目の参加となり、主催者様から、表彰をいただきました。

来年以降も継続的に当イベントに参加し、より多くの投資家の方に当社の情報を提供してまいりたいと考えております。

6. 当社の株式が「制度信用銘柄」に指定

当社の株式は、平成18年9月1日より東京証券取引所の「制度信用銘柄」となる指定を受けました。

「制度信用銘柄」とは、証券取引所が定める一定の基準(株主数、流動性、経営状況等)をクリアした企業から選定される銘柄のことで、指定銘柄になったことによって投資家の方々は、証券取引所が定める一律の基準に従って、当社の株式の「信用取引」(*)ができるようになりました。

今後とも投資家の方々の期待に応えられるよう、業績の向上に努めてまいります。

※「信用取引」:投資家の方が委託保証金を担保として、株券の買付代金や売付株券を証券会社に借り入れる事によって行われる株式取引。「制度信用取引」は返済期限や品質料等が証券取引所の規則によって一律に定められている。

アンケートご協力をお願い

当社では皆様とのコミュニケーションをより充実させていきたいと考えております。つきましては、以下のアンケートにご回答頂きますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

1 当社に対するイメージをお教えてください。

- ① 知名度がある ② 経営戦略が興味深い ③ 業績が安定している ④ 財務内容が安定している
⑤ 将来性がある ⑥ 研究開発力がある ⑦ 強い製品がある ⑧ 競争力がある
⑨ その他

2 中間報告書で興味を持った内容はありましたか。

- ① 経営に関するQ&A ② 屋根材業界・粘土瓦業界・当社販売シェアの動向 ③ 経営成績
④ 財務諸表 ⑤ 財務データ ⑥ 株式の状況 ⑦ 会社の概要 ⑧ 製品紹介
⑨ トピックス ⑩ その他

3 企業に求める最も重要なIR活動についてお教えてください。

- ① 会社説明会 ② IRイベントの参加 ③ 株主総会後の株主懇親会 ④ 工場見学
⑤ 事業報告書 ⑥ その他

4 企業情報・株式情報をどのような手段で得ているかお教えてください。

- ① 新聞・雑誌 ② 証券会社 ③ インターネット ④ テレビ
⑤ 企業説明会 ⑥ その他

5 中間報告書に対するご意見、ご要望がありましたらお聞かせください。

アンケート回答用紙

1

⑨その他の場合

2

⑩その他の場合

3

⑥その他の場合

4

⑥その他の場合

5

ご協力ありがとうございました。

Tsuruya 株式会社 鶴弥

本社 / 〒475-8528 愛知県半田市州の崎町2番地12
 TEL (0569) 29-7311 FAX (0569) 28-5566

ホームページアドレス <http://www.try110.com>



QMS . EMS
 ISO 9001:2000, ISO 14001:2004
 JSAQ325, JSAE168
 粘土瓦の設計及び製造
 ※ ISO 14001は仙台(営)を除く

郵便はがき

料金受取人払

半田局承認

114

4758790

937

差出有効期限
 平成19年1月
 12日まで
 (切手をはらずに
 お出しください)

半田市州の崎町2番地12

株式会社 鶴弥 総務課 行



お名前	(〒 - -)	(男性・女性)
ご住所		
お電話	- -	
ご職業		